



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## HbA1c 再考

[当法人理事]

吉元医院

吉元 勝彦 [医師]

HbA1cは血糖管理指標のゴールドスタンダードであることは疑う余地もありません。また、現行の糖尿病臨床診断フローチャートでは初回検査にHbA1cが組み込まれ、血糖高値とHbA1c 6.5%以上の両者を満たせばその場で糖尿病と診断でき、より早期から治療を開始することができるようになりました。しかし、貧血など様々な病態でHbA1cが実際の状況と合わない数値を示すことがあるので、HbA1cのみの反復検査、すなわちHbA1cを2回測定し、ともに6.5%以上あったとしても、血糖の高値が確認できなければ糖尿病と診断できないこととなっています。実際、貧血が高度な場合や鉄剤投与時にHbA1cは偽低値となり、以下の症例のように正確なコントロール状況を示さなくなるので注意が必要です。

**症例:**70歳男性、定期受診時HbA1cが8.2から7.0%と大幅に低下。本人も驚きを隠せなかったが、便通異常の訴えがあったため血算も施行したところ、貧血の進行が判明。直ちに精査を行ったところ大腸癌が見つかり、早期に治療を行うことができた。

一方、異常ヘモグロビン血症の場合、HbA1cは偽低値にも偽高値にもなり得るとされています。私も3例ほど異常ヘモグロビン血症と思われる糖尿病症例を診ていますが、いずれもグリコアルブミン(GA)を測定してみるとHbA1cとの乖離が強く、以下の症例のようにHbA1cでの管理は困難となります。

**症例:**白内障の手術が必要となった62歳の男性、インスリン療法を施行していたがHbA1c 9%前後という状態で経過しており、手術の許可はなかなか下りなかった。常にインスリンの増量を検討していたが、毎日3~4回測定している自己血糖のほとんどが100~130mg/dlと安定しており、血糖値とHbA1cとの間にかなりの隔たりを感じていた。当初は偽申告も疑ったが、生活状況に問題はなかったためGAを測定したところ16.9%(基準値12.3~16.5)と良好でその後も維持されていたため、眼科医に病態を説明し、無事手術を終えることができた。

一般的に異常ヘモグロビン血症は程度の差はあるものの非常に稀というほどではないようなので、疑いのある場合にはGAを測定するなどの対応が必要と思われます。また、HbA1cはあくまで過去1~2か月の平均血糖を表しているものであり、日々の血糖変動までは把握できないという点にも最大限の注意が必要です。詳しくは誌面の都合で書けませんが、そのHbA1cがその患者の血糖状況を正確に反映しているかどうか、量的な異常はないか、質的な異常はないか、常にチェックして行く必要があると考えます。

なお、平成22年の診断基準改定時から「HbA<sub>1c</sub>」を「HbA1c」と記載してよいこととなり、今回のような原稿(HbA1cが17回)を打つ際、大変楽になったことを付け加えておきます。

読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。  
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

**問題** 糖尿病腎症について正しいのはどれか、2つ選べ。(答えは3ページにあります。)

1. 第2期(早期腎症期)の診断として、尿蛋白量(g/gCr)を測定する
2. 第4期(腎不全期)の血糖降下薬として、SGLT2阻害薬が適している
3. 第4期(腎不全期)では、高カルシウム血症が出現する
4. 第4期(腎不全期)では、腎性貧血が出現する
5. 第5期(透析療法期)の腹膜透析では、カリウム制限の必要はない



## 報告

## 第31回武蔵野糖尿病医療連携の会

日時：平成30年7月21日(土)  
場所：ホテル日航立川東京

第31回武蔵野糖尿病医療連携の会は、「治療困難例におけるブレイクスルー2018」をテーマに7月21日(土)ホテル日航立川にて開催されました。

演題1は、「糖尿病患者が禁煙したらどうなるか？どうするか？」という演題で、府中よつやクリニック・市川 雅先生より、糖尿病患者が禁煙した際の影響や、体の変化についてお話し頂きました。演題2は、「インスリン導入が困難な症例について」という演題で、立川相互病院・宮城 調司先生より、立川相互病院におけるインスリン導入虎の巻を外来編と入院編に分けてお話し頂きました。演題3は、「血糖変動が大きい症例への対応」という演題で、東京都立多摩総合医療センター・辻野 元祥先生より、多種多様である血糖変動が大きい症例についてご講演頂きました。

今年度は計33名の医師・コメディカルの方々にご出席頂きました。次回は2019年7月頃に開催予定で、現在日程調整中です。この研究会はありきたりのテキストブックでは飽き足りない皆様に、実践に即したすぐに役立つ情報をお届けすることを目的としております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。

## 報告

## 西東京CDEの会 第17回例会

日時：平成30年8月25日(土)  
場所：府中ひばりホール

[当法人会員] 実行委員 府中腎クリニック 福島 由香里 [管理栄養士]

8月25日(土)に『西東京CDEの会 第17回例会』が府中市立中央文化センターひばりホールにて開催されました。今回のテーマは「糖尿病性腎症の重症化予防」とし、126人の参加があったことから関心が高いことがうかがわれました。

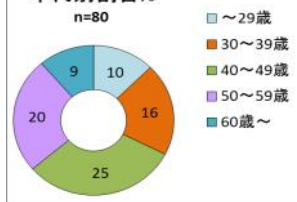
第1部基調講演はイムス三芳総合病院 内分泌・代謝センター長 貴田岡正史先生に「糖尿病性腎症の重症化予防のためにCDEができること」と題し、東京都の糖尿病腎症重症化予防プログラムが制定された背景、今後の事業展開など詳しくお話いただき、CDEの積極的な事業参加に期待される、と締めくくられました。

第2部カテゴリー発表は、1.看護師 今野里美先生から、療養行動がとれるよう患者の心に寄り添う支援、2.薬剤師 指田麻未先生から、腎毒性のある薬剤への注意、3.臨床検査技師 山口佳美先生から、糖尿病性腎症の病気分類と診断のための検査項目、4.管理栄養士 岡本啓吾先生から、低蛋白食事療法の導入時期と低蛋白食事療法のポイント、5.理学療法士 天川淑宏先生から、CKD患者

職種別割合%



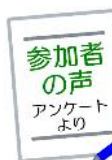
年代別割合%



のプレイル抑制のための実践的な運動について各職種の立場から「糖尿病性腎症の重症化予防」で知っておくべきポイントについて示していただきました。

第3部モバイルdeアンサーでは、活発なディスカッションが制限時間一杯まで行われました。特に食事についての質問が多かったことから、栄養士がいない職場では他職種から食事指導をすることも考えられました。

CDEが腎臓病に関する各職種の専門知識を共有することが重症化予防には必要と思われました。



- ☺ 日々勉強して一人でも多くの患者さんに寄り添えるNsでいたい。明日からも頑張ります。
- ☺ 知りたいことが聞けて勉強になった。他職種の対応が聞けて良かった。
- ☺ もう一度腎症について知りたい。またこのテーマでやってほしい。
- ☺ 挙手はしにくいけどツイートだと自由に発言できる。



## 第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

平成30年9月23日(日)～24日(月)

茨城県立県民文化センター 他

[当法人評議員]

杏林大学医学部付属病院

浅間 泉 [看護師]

茨城県水戸市で開催された、第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会に参加してきました。今回のテーマは、【心に響く関わりで拓こう未来(あす)への道すじ】でした。那珂クリニック副院長の道口佐多子会長の講演は、糖尿病看護実践から様々な創意工夫をし、それは看護理論と繋がっていくプロセスであることが長年の経験で気づいたこと、そして、ストラウスとコービンの理論を用い患者さんを支えていくあるべき姿勢、チームワークの様々な職種の人たちのもつ特異性を共有し学びながら、患者さんと向き合う大切さなどを述べられていました。それこそ、積み上げてこられた40有余年の臨床実践の経験の知を感じる内容でした。また、一緒に働く人たちとも心に響く関わりを持ち「患者様の未来、自分たちの未来」を拓いていきたいと展望を話されていました。特別講演は、医療におけるストレスとコミュニケーションスキルがテーマでした。



特別企画では、災害時の糖尿病患者支援で災害支援活動にご尽力いただいた4人の先生方の活動報告がありました。東日本大震災の被災地の北関東地区であり、未だ完全な復旧を果たしていない水戸市での学会開催は、意義のあることと感じました。もうひとつの特別企画として、普段糖尿病看護実践での勇気が足らなくて聞けないことのフリーディスカッションや1型糖尿病患者さんを囲んでの「LET'S TALK」、市民公開講座では、Type1のバンド1-GATAのコンサートの企画もありました。懇親会では、茨城県知事と水戸市長の来賓を賜り、地方都市開催のおもてなしを感じました。活発な交流集会は勿論、多くの演題発表があり、個人的には昨今保険収載されたFGMなどの現状報告は、参考になりました。テーマのとおり、私たち看護師の未来(あす)のエールを頂いた学会でした。



場外編では、日本三大名園の1つである偕楽園や千波公園の自然にふれあいました。偕楽園で開催中の萩まつりと、24日は中秋の名月でもあり茶会の野点も楽しみました。秋を満喫した有意義な2日間でした。



読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 4, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

### 解説

1. × 第2期の診断は尿アルブミン値(mg/gCr)を測定する。
2. × 腎臓から糖を排泄させるSGLT2阻害薬は腎不全(eGFR<30)の症例では有効性が低下することもあり不向きである。
3. × 腎臓のビタミンD活性化能の低下からくる活性型ビタミンD欠乏などにより、血中カルシウム濃度は低下する。
4. ○ エリスロポエチンの産生低下により腎性貧血が出現する。
5. ○ 腹膜透析はカリウム除去に優れているため厳格なカリウム制限は不要である。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

## ◆ 第11回 ブルーライトアップ - スカイトワー西東京 -

 申込必要

開催日：平成30年11月10日（土）15：45～18：00（開場：15：15）  
 場所：スカイトワー西東京 タワープラザ地下1階会議室 ※雨天決行  
 （西武線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分 または西武線「田無駅」北口よりバス有）  
 申込：FAX：042-322-7478  
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

 参加費  
 無料

 詳細資料の  
 同封あり


14：45～ 西東京糖尿病療養指導士による「糖尿病クイズラリー」にも参加可能です。

## ◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第15回研修会

 申込必要

演題：『CSII/FGM/CGMの現状』  
 開催日：平成30年11月20日（火）19：20～21：00  
 場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）  
 参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円  
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/8締切）  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 詳細資料の  
 同封あり

## ◆ 第2回 薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会

 申込必要

テーマ：『糖尿病発症予防のために』  
 開催日：平成30年11月21日（水）19：30～21：00  
 場所：国分寺労政会館 第一会議室（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分）  
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/14締切）  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 参加費  
 無料

 詳細資料の  
 同封あり

## ◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第64回例会

 申込不要

テーマ：『人生100年時代のフレイル・サルコペニア対策』  
 開催日：平成30年12月1日（土）15：30～18：50  
 場所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）  
 参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位  
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中  
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

 参加費  
 無料

 詳細資料の  
 同封あり

## ◆ 第19回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

 申込不要

テーマ：『SGLT-2阻害薬の新たな展開』  
 開催日：平成30年12月15日（土）15：00～17：55  
 場所：アレアホール アレア2 6階（JR中央線「立川駅」南口下車 徒歩2分）  
 参加費：医師 1,000円 / 医師以外 無料  
 問合せ：サノフィ(株)（担当：渡辺） TEL：080-6627-7802  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位  
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中  
 ☆日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：9、73、76、82）：2単位4カリキュラム申請中

 詳細資料の  
 同封あり

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
 〒185-0012  
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
<https://www.cad-net.jp/>  
 Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



糖尿病のチームを結成して20年。チームの看護師さんと一緒に様々な学会に参加して勉強した。ご褒美の観光も忘れずに。兼六園、後樂園と日本三庭園のうち2つを見学したところで、必ずいつか3つを達成するのが目標に。今回、日本糖尿病教育・看護学会に参加し、勉強した。もちろんご褒美の借楽園は、昼さらに夜のライトアップも堪能することができた。  
 （広報委員 小林 庸子）